

# 週報

2007年 6月 10日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。  
使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

牧師 村上定幸

《今朝の聖書から》創世記11章が開かれます。  
“バベルの出来事”が起こるまで人々は皆、同じ言葉を使っていたし、言っている事が分からないとか、通じないということはありませんでした。世界の言葉がどうして分けられているのかは、学問でも説明できませんが、聖書は“そこで彼らの言葉を乱し、互に言葉が通じないようにしよう(7節)”と主の決められたことだと説明しています。何故人々は“彼らはまた言った、「さあ、町と塔とを建てて、その頂を天に届けよう。そしてわれわれは名を上げて、全地のおもてに散るのを免れよう」(4節)”と言った事に失敗したのでしょうか。技術が微力だったからでしょうか。神の領域にまで進んで行こうとしたからでしょうか。原因は人々の言っている事がお互いに通じなくなってしまったからなのです。会議などを思いだしてみましよう。お互いに、しゃべることは喋るのですが、ぜんぜん通じ合っていなかったとしたら、何にも出来なくなってしまいます。何をすることも言葉は、それを通じて神様が、御自身を揭示されたほど重要なものです(“初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。”、ヨハネ福音書1:1)。ペンテコステの出来事(教会の誕生)とともに、聖霊によって“神の言葉”が再び、私たちに与えられた事を学びましたが、言葉を得た者はそれほど強いのです。私たちが新しい技術を手にした時、大いに喜び、さまざまなチャレンジ(挑戦)を行ないますが、それには、管理するものとしての責任もまたついている事を思いだしましょう。人は石炭や石油を手にはしましたが、コンクリートや鉄の建物が出来るようになりましたが、はたして、その技術によって、散らされることから免れることが出来たのでしょうか。世界の政治勢力は、地球の温暖化が大きな問題になっていることは知っているのですが、今日と明日、お金儲けをする事の方が大切だという理由で、散らされて行く道を進んでいるのです。バベルの塔の出来事に実によく似ています。そして今度、散らされたとすれば、その破局の程度は、はなはだ大きいのです。しかし、神の思いが一人一人に与えられている、という理由によって、私達は、散らされる事から免れ、神様から頂いた知恵と技術を管理することが出来るようになるのではないのでしょうか。私達には“町と塔とを建てて・・・全地のおもてに散るのを免れよう(4節)”という思いがあります。強くなることで免れるのではなく、神様との言葉を回復する事によってそれは可能なのです。